

BB通信

3月 vol.05



×



3月7日(土)チームとしては悔しい敗戦の日になりました。チーム全体としてまだまだ力不足だということを感じました。新3年生はビッグボーイズでの活動も半年を切りました。集大成の年、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。スタッフはやる気満々ですが、選手にプレッシャーを与えないようにボチボチいきます。まだまだ子供らしさが残る新2年生も4月には後輩ができます。言動・行動で後輩達を引っ張っていきましょう。

「谷間世代の活躍」

コーチ 阪長 友仁

1981年に生まれた私は、その18年後の1999年に高校3年生となりました。保護者の皆さんの年代にも強烈な印象を与えたであろうあの松坂世代が我々の1つ上の代です。もちろん本人・松坂大輔(横浜高校)をはじめ、杉内(鹿児島実業)、藤川(高知商業)、上重(PL学園)、久保(関大一)、新垣(沖縄水産)、村田(東福岡)、多田野(八千代松陰)、寺本(明德義塾)など早々たるメンバーが揃い、大いに世間を沸かせました。

それに比べて、翌年の我々の代と言えば、正に谷間世代。甲子園に出場してやや注目を浴びたのは鳥谷(聖望学園)くらい(それも1回戦負け)で、正に不作の年と言われました。

そして、あれから15年が経過し、一つのおもしろい現象が出ています。

実はここ数年メジャーリーグ(MLB)でプレーしている日本人で最も多いのが我々の世代なんです。MLBでプレーする日本人全体の数が少ないので、それだけで一概にレベルが高いというわけではありませんが、去年もそれなりに活躍した岩隈、青木、川崎の3人がおそらく今年も活躍してくれるのではないかなと期待しています。実にMLBでプレーする日本人10人中3人が同年代です。

そして、この3人とも中学・高校時代は全国的にはほとんど無名だったことを付け加えておかなければならないと思います。岩隈は東京の堀越学園、川崎は鹿児島工業、青木は宮崎の日向高校、もちろんみんな甲子園には全く無縁でした。ドラフトもみなさん下位指名です。

そうなんです、高校3年生でも、その15年後にどのような選手になっているか実は誰も全くわからないんです。ならば現在、中学生ということであればその可能性は無限大に近く広がるのかもしれませんが。

中学時代の成績、高校の成績は関係ないから適当にやろう！ということではなく、今の結果が将来とは無関係だからこそ、将来のために今やるべきことを最優先でやっていこう！というスタンスが大事なのかなと彼らの活躍を見て改めて思います。

もちろん野球だけが人生のすべてではないと思いますし、野球の結果だけでその人の価値を表せるものでもありません。大人も子供も野球を通じて共に学んで成長していける環境作りを今後も継続していきたいなと思っています。

「見守る・導く」

ビッグボーイズのスタッフはそれぞれキャリアは違いますが、学生時代は当然野球を行っていました。しかしその経験論で選手にアプローチをすることを禁止しています。なぜか？10年前、20年前は当たり前だった指導が今は当たり前ではありません。

10名選手がいれば、10通りのアプローチを考える必要があります。選手それぞれ育った環境、体格、性格が違うので全員に同じアプローチをするということはありません。

木で例えるなら枝の部分、「ボールを前で投げろ」「肘を上げろ」「ポイントは前だ」等のアプローチはタブーです。幹が完成していない枝にたくさんの実をつけると枝は折れてしまいます。人間の体も同じです。

この時期は大きく育てることを一番に考えるべきです。三振、エラーは何回でもすればいい、そこで選手自身がどう感じるかです。周りの指導者、大人が結果を見て枝の部分指摘することで、選手の思考が正常に働かなくなり体の動かし方さえ分からなくなった結果、イップス等に繋がります。こうなった選手はそうそう元の正常な動きに戻りません。

指導者、大人ができることはたかがしれています。
選手を自分の思い通り作り上げることはできません。

我々大人は選手に敬意を払いグラウンドに立つ必要があります。選手から学ぶことがたくさんあるからです。選手が自然と成長する環境作りが指導者の役目です。

コーチ 久富 恵介

「納得するまで野球ができる環境作り」

「コーチって野球やってたんですか？」

私がボールを投げていると、よく子どもに言われる言葉です…(汗)。

そんな私も、高校までは、投げることだけは人並みに以上にてきていた選手でした。高校では、エースとして公式戦に登板したこともありました。しかし、まさに枝葉の指導、「投球のテイクバックは大きく取れ」、「もっとクイックを早くしろ」「左手はもっと大きく使え」などという指導を受け、それを全てやろうとした結果、気づけば、「イップス」と言われる投げ方がわからない状態になっていました。

子どもからすると、「監督やコーチ、先輩の言うことは聞いて当たり前」という感覚があると思います。それを聞いて、「うまくなった」、「下手になった」それは様々だと思います。しかし、そういった技術的なことよりも大事なものは、子ども自身が「自分で考えて、納得するまで野球と向き合うことができた」という実感だと思います。それができる環境があれば、野球人生を終えた後も、自然と周りへの感謝の気持ちが湧き、子どもは人間的に成長してくれるのではないかと考えています(もちろん、指導者はどうすればなるべく教えずに、選手が技術的に向上するかを考えますが)。これからも、選手が思う存分、自分で考えて野球ができる環境作りを心掛けていきます。

コーチ 岩井健一

2015年4月 堺BB小学部設立

小・中一貫指導開始

子供達の可能性を最大限引き出す！

堺ビッグボーイズから世界に羽ばたく人材を輩出します！

皆様、広報にご協力下さい。

詳しくは、お気軽に久富コーチまで！！

BB塾

無料体験実施中！

個別指導：10,000円/月～

場所：プロスペクト株式会社 3F

お問い合わせ：TEL 070-1218-8753

お気軽に岩井までお声掛けください！

